

POWERHOUSE®
REACTIVE LOAD  ATTENUATOR

取扱説明書

MESA
ENGINEERING®

使用上のご注意:

- ・ この取扱説明書をよくお読み下さい。
- ・ 今後も参照して頂けるようにこの取扱説明書を保管しておいて下さい。
- ・ 全ての注意事項を順守して下さい。
- ・ この取扱説明書に従って下さい。
- ・ Caution: 100W以上の高出力アンプでインターナルロードを使用する場合、アンプ側の出力(マスター)を上げ過ぎないでください。アンプの出力を必要以上に上げ過ぎることでスピーカーが接続されている時同様にアンプへ過度のストレスがかかり、パワー管の消耗が早くなってしてしまう可能性があります。本機のシャーシに触れて過剰な発熱を確認した場合には、アンプのマスターボリュームを下げてください。
- ・ 本製品は水の近くで使用しないでください。
- ・ 汚れたときは乾いた布で拭いてください。

POWERHOUSE Reactive Load Attenuator

POWERHOUSE® Reactive Load Attenuatorをご購入いただきありがとうございます。MESA/Boogieファミリーへようこそ！本製品も他のすべてのMESA/Boogie製品に共通する厳格な基準のもとに製造されています。本製品の機能を通じて、長年にわたってインスピレーションと音楽の楽しさを感じて頂けるようお願いしております。

OVERVIEW

演奏経験のあるプレイヤーならば、素晴らしいサウンドを奏でる真空管アンプのトーン、フィール、高揚感に替わるものはないことはご存知でしょう。6V6管またはEL84管を使用した30Wのコンポアンプでも、6L6管またはEL34管を使用した本格的な100Wアンプヘッドでも、“パワー管が本領を発揮できるゾーン”で稼働するチューブアンプのダイナミクス、表現力、充実性と立体感に匹敵するものではありません。

ですが最近ではライブ会場の数も減少し、近隣の人々も以前のように大きな音に寛容ではなくなっているという現状もあります。PowerHouse® Reactive Load Attenuatorを使用すれば、求めているサウンドを妥協してダイナミックさに欠けるゾーンでお気に入りのアンプを出力する理由はもうありません。

本機はトーンとフィールを最優先に考え、ボリューム制限のない状態で真空管アンプが生み出す魔法はそのままに、不可欠な機能を備えた製品です。

CabClone IRシリーズに搭載している機能をさらに拡張させたリアアクティブロードは、アンプのパワーセクションを保護し、スピーカーキャビネットとほぼ同様の周波数とレスポンスカーブを描いてアンプのパワーセクションと反応します。そして、スピーカーキャビネットなしでも、静かで安全に使用することが可能です。

SPEAKER/LOADミニトグルスイッチをLOAD側に設定するとSPEAKER OUTはMUTEされて、入力された信号はリアパネルのLINE OUTからのみ出力します。外部キャビネット・シミュレーターやインパルス・レスポンス・プレイヤー、より広いヘッドルームを獲得するためのパワーアンプ、リアンプするためにコンソールからエフェクト・プロセッサに接続したりといったように、(Cab Clone IRシリーズのようなキャビネット・シミュレーションのない)未処理の信号が望ましい後続の環境への接続が可能です。

SPEAKER側に設定すると、リアパネルの2つの1/4" SPEAKERジャックが機能します。どちらのジャックでもアッテネーターはアクティブで、アンプ出力を安全に低減させることが可能です。アッテネーション・コントロールでは、Bypassに加えて-4、-8、-12、-16dB の4段階のパワーリダクション・レベルを備えています。さらに、-16dBアッテネート時にリダクション量を変設定できる-16dB Level Controlを併用すれば、最も低い設定ではささやきレベルもしくはそれ以下のソフトボリュームに設定することが可能です。

フロント・パネルのVoicingスイッチでは、SPEAKER OUTから出力される信号のボイスिंगをNORMAL、BRIGHT、WARMの3ポジションから選択可能です。

許容入力力は最大150Wで、4Ω、8Ω、16Ωのインピーダンスバージョンをラインナップしています。

REAR PANEL - CONNECTION INPUTS/OUTPUTS

INPUT - FROM AMP SPKR OUT: アンプのスピーカーアウトプットからスピーカーケーブルでこの1/4"ジャックに接続します。スピーカーがTO SPKR OUTジャックに接続されていない場合は、内蔵のロードに接続されてご使用のアンプのアウトプット・トランスを保護します。4Ω、8Ω、16Ωの各インピーダンス別にラインナップしているので、ご使用のアンプの適切な端子と接続するようにしてください。

LINE OUT (DRY): この1/4"アウトプットは、キャビネット・シミュレートされていないラインレベルシグナルをインパルス・レスポンス・プレイヤー等のアウトボード機材に送信するための端子です。より広いヘッドルームを得るためにパワーアンプを接続したり、コンソールに送信してリアンプに使用することもできます。このシグナルには、フロントパネルのATTENUATIONコントロールの設定は反映されません。

LINE OUT: このロータリー式コントロールでLINE OUT (DRY)アウトプットのレベルを決定します。ほぼすべての外部機器で求められる必要なインプットレベルに対して十分に調節を行うことができます。

NOTE! LINE OUTコントロールを反時計回りいっぱいに設定して、必要に応じてゆっくりと適切なシグナルレベルまで上げることをお勧めいたします。これにより予期せぬ大音量が発生した場合に、接続されている機器や耳への損傷を防ぐことができます。

OUTPUTS - TO LIVE SPKR CAB: これらの1/4"アウトプットからスピーカーキャビネットに出力します。アンプのスピーカーアウトプットからPOWERHOUSE® Attenuatorに出力された信号は、SPEAKER/LOADスイッチをSPEAKER側に設定すると接続したスピーカー・エンクロージャーへフィードされます。スピーカーキャビネットのボリュームレベルはフロントパネルのATTENUATIONの設定で決定します。SPEAKER/LOADスイッチがSPEAKER側に設定されている時はインターナルロードは無効化されるため、インターナルセーフティロードのインピーダンスはこれらの端子のインピーダンスロードには影響を及ぼしません。インターナルロードが無効化しているときは、接続したスピーカーキャビネットによってロードインピーダンスが決定します。

NOTE: TO LIVE SPKR CABジャックはパラレル(並列)で配線されているので、全体の合計インピーダンスに注意してアンプに対して正しいロードで接続していることをご確認ください。パラレルで接続された2つのキャビネットの合計インピーダンスは、それぞれのキャビネットのインピーダンスの半分になります。例えば8Ωのキャビネット2台をパラレルで接続した時は合計で4Ωのロードになるので、この場合はアンプの4ΩアウトプットからPOWERHOUSE®のAMP SPKR OUTに接続し、POWERHOUSE®の2つのTO LIVE SPKR CABアウトプットからそれぞれのキャビネットの8Ωインプットに接続します。この方法で安全かつ適切にインピーダンスをマッチさせることができます。

FRONT PANEL - CONTROLS

真空管アンプに常時ロードを接続することは非常に重要です。アンプの安全を常に念頭に置いてください。

SPKR/LOAD: この2ポジション・ミニトグルスイッチで、POWERHOUSE®のインターナル・リアクティブ・ロードのステータスを決定します。サイレントでのレコーディングや自宅練習等の無音時にはLOAD側、リアパネルのアウトプット(TO LIVE SPKR CAB)にスピーカーキャビネットが接続されているロードが提供されている場合にはSPKR側を選択してインターナル・リアクティブ・ロードを無効化することができます。

IMPORTANT! フロントパネルのSPEAKER/LOADスイッチがSPEAKER側に設定されている時は、リアパネルのアウトプットの片方もしくは両方にスピーカーエンクロージャーを接続していない状態でアンプを出力しないでください。上記に従わずにアンプに損傷が発生した場合、保証期間内であっても保証対象外となる可能性がありますので予めご注意ください。

ATTENUATION: この5ポジションロータリースイッチで、0dB(バイパス)から-4、-8、-12、-16dBまでの5段階のアッテネーションを選択可能です。人間の聴覚は可変し音量を均一に知覚しないことを考えると、アッテネーション・レベルの段階と音量のリダクションは極めて一定といえるでしょう。

ニーズに合ったレベルでアンプのアウトプットセクションを設定したら、アッテネーターを使用して適切なリスニングレベルに合わせます。

アンプのアウトプットセクションを常時高レベル/マスター設定で使用するとパワー管の寿命だけでなく、パワーセクションがクリップしたときのプリアンプの有効性と、入力が増加が出力の増加に結びつかなくなるポイントとサウンド全体のコントロールの両方の観点から他にも支払う代償が発生するため、必要な時のみアッテネーターを使用することをお勧めいたします。

ですが、アンプ側のマスターボリュームを最大限もしくはそれに近い状態に任意に設定しなければならないということではありません。そのような設定をしてしまうとアンプとパワー管に過度なストレスがかかるだけでなく、POWERHOUSE®のインターナル・ロードを過剰に発熱させることにつながります。

アンプ側のマスターボリュームをパワーセクションのキャラクターが十分に発揮される範囲で設定してください。プリアンプのGAINとトーンコントロールの効果が失われるほど高くは設定しないでください。

NOTE: 16dBアッテネーション・ポジションは、LEVELコントロールを時計回りいっぱいに回したポジションと同様にラベルの部分が白く塗られています。16dBセッティングではLEVELコントロールが機能して、最も高いレベルのアッテネーションでリスニングレベルを自在に微調整することができます。この機能のおかげで、アンプ側のマスターボリューム設定にかかわらず、ソフトなささやきのような音量レベルにまで下げることが可能です。

LEVEL: このコントロールは、アッテネーション設定が16dB時のみ有効です。時計回りいっぱいに回した際の最大-16dBから反時計回りいっぱいに回した”INFINITE”(ボリュームゼロ)まで、-16dBアッテネーションセッティングを自由自在にコントロールします。

WARM/BRIGHT/NORMAL: この3ポジション・ミニトグルスイッチでボイシング・オプションを選択できます。下側のWARMポジションではより暖かみのあるリッチなサウンド、真ん中のBRIGHTポジションではオープンでよりトップエンドが効いたサウンド、上側のNORMALポジションはニュートラルな状態に近く、ローとハイのレスポンスがWARMとBRIGHTの中間程度になります。

COOLING FAN: 内部冷却ファンはアンプのスピーカーシグナルボルテージで駆動するため、動作は演奏のダイナミクスに追従します。ファンの動作のスレッシュホールドは、アンプのアウトプットレベルによって決まります。信号が大きくなればなるほどファンの回転速度も速くなり、音量が小さい場合はダイナミックパッセージでのみ回転するか、まったく回転しない場合もあります。大音量時には、インターナルロードを冷却するために継続して回転する場合があります。

NOTE: 適切な冷却と換気を行うために、ユニットの両サイドを塞がないでください。

POWERHOUSE® Reactive Load Attenuatorをお楽しみいただき、今後のギターサウンドの捉え方に新たなオプションとインスピレーションを得て頂けることを願っています。今後数年に渡り、あなたのトーンにおける貴重な秘密兵器になれば幸いです！

MESA/BOOGIE

The Spirit of Art in Technology



ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: service.japan@gibson.com

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）